

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は106～107円台で上値の重い展開か

[6月22日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月12日～6月18日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	107.32	107.64(15)	106.67(17)	106.93	-0.45
ユーロ・ドル	1.1250	1.1353(15)	1.1186(17)	1.1212	-0.0044

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	22,478.79	+173.31	日本10年債利回り	0.013	0.000
ダウ平均株価	26,080.10	+474.56	米10年債利回り	0.708	+0.005

=====

<来週の主要経済統計等>

- 22日 米5月中古住宅販売件数
- 23日 独6月製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値
独6月非製造業PMI速報値
英6月製造業PMI速報値、英6月非製造業PMI速報値
米5月新築住宅販売件数
- 24日 ニューージーランド準備銀行(RBNZ)政策金利
日本4月景気動向指数改定値
独6月ifo景況感指数
米MBA住宅ローン申請件数
米4月住宅価格指数
- 25日 NZ5月貿易収支
米5月耐久財受注
米第1四半期国内総生産(GDP)確報値
米新規失業保険申請件数
- 26日 米5月個人所得・個人支出
米5月個人消費支出(PCE)デフレータ
米6月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】米国株をはじめとする株価の修正安に伴う円買いの動きが警戒される。株安の動きがさらに広がるようだと、リスク回避の円買いが続きやすくなり、ドル円は上値の重い展開となりそう。ドル円は下げが加速すると105円の節目を試す可能性が出てくるとした。

【景気回復期待と感染拡大第2波警戒のせめぎあい】

15日に米連邦準備制度理事会(FRB)が企業向けの支援のため社債購入を開始すると発表した。この日は新型コロナウイルスの感染拡大第2波が警戒されて、米国株は急落していたものの、この報道を受けて上昇に転じた。16日にトランプ政権は1兆ドル規模のインフラ投資計画を準備していると報じられており、新型コロナウイルスの感染拡大で落ち込んだ経済を下支えするための対策が打ち出されている。

そうした中、米国や中国、他の国々での感染拡大第2波が警戒されている。米国ではテキサス州やフロリダ州、カリフォルニア州などでは感染者数が拡大しており、米国株の重石となっている。ブラジル、インド、チリなど新興国地域での感染拡大の動きも続いている。アジア地域では、北京の食品卸売市場での感染者数が増加しており、一段の感染拡大が警戒されている。

15～16日に開催された日銀金融政策決定会合では、大規模な金融緩和策を維持する姿勢を示した。資金繰り支援の総枠を75兆円規模から110兆円規模に拡大することで、企業支援の姿勢を一段と明確にしている。なお、国内の景気判断については4月に示した「厳しさを増している」から「きわめて厳しい状況にある」に変更している。

16日のパウエル議長の半期に一度の議会証言では、「財政規律への警戒感よりも経済の立て直しのために歳出の増加による経済の再生を優先すべき」と述べた。また、4～6月期の経済成長率に関しては「前例のないようなひどい落ち込みになる」との見解を示した。「回復の時期と強さは著しく不透明。景気が軌道に乗るまでゼロ付近の金利維持する」と表明した。イールドカーブコントロール（YCC）については「検証は初期段階にある」と述べており、導入に向けては慎重な姿勢を示している。

各国での経済活動再開は景気回復への期待感につながり、株価の支援材料となっている。一方で感染拡大第2波につながる可能性も高く、景気や株価の重石としてのしかかっている。ドル円は米国での感染拡大第2波への警戒感などによって、107円を割り込む場面もみられるなど、上値の重い展開が続いている。景気回復への期待感と感染拡大第2波への警戒感が交錯する中、ドル円106～107円台で上値の重い展開が続きそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、105.50～108.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、22日に米5月中古住宅販売件数、23日に米5月新築住宅販売件数、24日に日本4月景気動向指数改定値、米MBA住宅ローン申請件数、米4月住宅価格指数、25日に米5月耐久財受注、米第1四半期国内総生産（GDP）確報値、米新規失業保険申請件数、26日に米5月個人所得・個人支出、米5月個人消費支出（PCE）デフレーター、米6月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは軟調な流れが継続か】

6月10日にはユーロドルは1.14台前半まで上昇を見せた。6月のFOMCでイールドカーブ・コントロール（YCC）が議論されるとの思惑もあって、米長期金利が低下してドル売りの動きに傾きやすくなったことやユーロ圏での景気対策なども背景にあった。その後はユーロドルの上昇は一服して、軟調な推移を見せている。ユーロドルの過熱感に加えて、ドル売りの動きが一服したことが背景にある。

新型コロナウイルスの感染拡大第2波への警戒感が台頭する中、リスク回避のドル買いの動きもみられるようになってきている。こうした中、ユーロドルは上下に振幅を繰り返しながらも軟調な流れが続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1050～1.1350ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、23日に独6月製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値、独6月非製造業PMI速報値、英6月製造業PMI速報値、英6月非製造業PMI速報値、24日にニュージーランド準備銀行（RBNZ）政策金利、独6月IFO景況感指数、25日にNZ5月貿易収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客向け 印刷用紙の複製 印刷等著作権法上認められている範囲を除き 当社および他の著作権者の許諾なく 本レポートの著作物を複製 公衆送信

ナリケツの合従は、私的又は公的複製、著作権者TFEに上訴するに際しての戦役の際に、三社のみしての世帯TFE自訂録、L1シケツ自TF物と翻案、ムネムネ、
営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。